

■稲の中干しの考え方と穂肥について

～収量、品質の向上を目指して～

稲の収量、品質を確保する上で水管理と施肥はとても重要です。今回は中干しと穂肥の効果、実施する上でのポイントを紹介します。

【中干し】

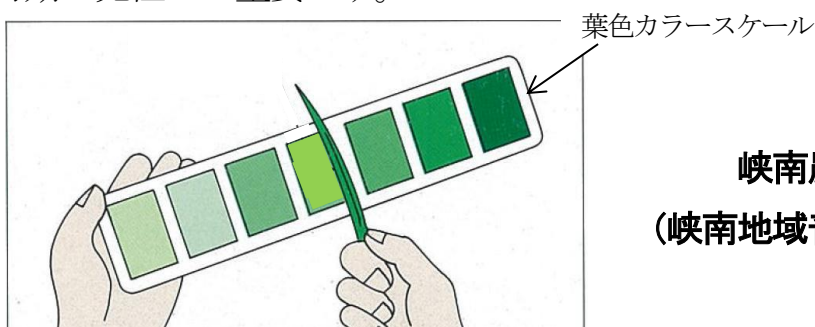
- 目的：①ムダな分けつの発生を抑える。②土壤に酸素を供給し、根の伸長を促進する。③機械作業に適した土の固さを確保する。

なお、中干しが不十分な場合、茎数、籾数が過剰になり倒伏しやすくなったり、未熟粒が増えます。

- 時期：田植え40日後から出穂(穂が茎から出る)1ヵ月前までの間。
- ポイント：田面に小さなヒビが入る程度を目安に行ってください。水が自由に管理できない場合は軽く干し、走り水(地面が軽く浸る程度でかけ流し)を行ってください。中干し後は間断灌漑(水入れ：2～3日、水抜き：2～3日を交互に)を行ってください。

【穂肥】

- 目的：一穂籾数の増大、未熟粒の減少による収量、品質の向上。
- 時期：出穂期の25～15日前。
- ポイント：NK化成を窒素成分で1～2kg/10a施肥してください。施肥量は葉色カラスケールで葉色の濃さ(最上展開葉の中央部)を確認し調整します(下図)。
※生育、天候、品種によって時期を変える必要があります。早すぎると倒伏しやすく、登熟が悪くなり、遅いと着粒数が不足、食味の低下の原因になりますので時期の見極めが重要です。



峡南農務事務所 農業農村支援課
(峡南地域普及センター) 生産振興担当

055-240-4131